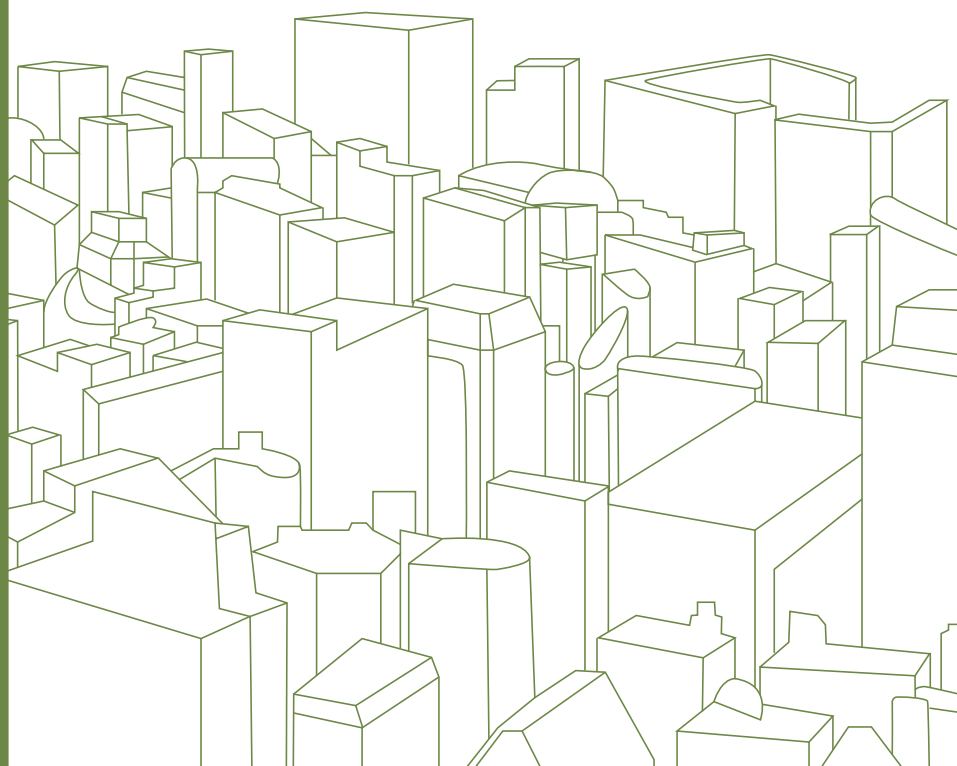


地震に備えて空間づくり

防災マニュアル



Disaster prevention manual

CLEARTHLIFE
GROUP

株式会社クreasコミュニティー

はじめに

常日頃より私どもクリアスコミュニティーの管理業務にご理解とご協力を賜り、
誠にありがとうございます。

弊社では、皆様が安心して快適なマンションでの暮らしを送っていただけるよう
日常の管理業務を通じてサポートさせていただいておりますが、
いつ、どこで起きるかわからない大震災への備えとして
本冊子をご用意いたしました。

皆様に少しでもお役に立てていただければ幸いです。

1 事前の備え

- ① 家具の配置・バルコニーの整頓……………2ページ
- ② 事前準備……………3ページ
- ③ 災害時の連絡……………5ページ
- ④ 避難経路、避難器具等の確認……………6ページ

2 災害時の基本行動

- ① 火災時の行動……………8ページ
- ② 地震時の行動……………9ページ
- ③ 震度とマグニチュード……………10ページ
- ④ 避難前に行なうこと……………11ページ

3 災害後の行動

- ① 適切な避難の判断……………12ページ

4 資料

- ① 災害後のライフライン(電気・ガス・水道)の確認方法……………13ページ
- ② 緊急カードを作成しましょう……………14ページ

クリアスライフグループが提案する
Sab Station〔サブステーション〕



私たちクリアスライフグループでは新耐震基準以降の強固に建てられた物件に厳選し、また私たちの強みである都心の立地環境にて収納スペースを第三者に賃貸する防災対応のトランクルームを賃貸管理会社・クリアスレントが展開しております。また防災の専門家による「防災セット」もご紹介しております。詳しくは下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ・お申込み】クリアスレント

<http://www.clearth-rent.co.jp>

 **0120-360-290** 10:00~18:30
携帯可



1 事前の備え 被害を最小限にするための住空間づくり

大地震がいつ起きるかわからないからと言って、ただ手をこまねいているだけでは何も解決しません。

日頃から“備え”をしっかりとしておくことで、いざというときの被害を最小限にとどめ、災害に対して慌てず落ち着いた対応をとることができます。

大切なのはマンションの居住者ひとりひとりが、住戸内の安全対策に責任をもち、避難経路の確認、備蓄品の管理、被災時の対応などについて日頃から心の準備しておくことです。

それがマンション全体の防災力・減災力につながります。

①家具の配置換え

震災から大切な生命や財産を守るためには、住戸内の安全性を高めることが重要です。それにはまず家具の転倒・落下・移動を想定し、安全性に十分に配慮をした配置などを行ないます。また日頃からの整理整頓も心がけましょう。



バルコニーの整頓

バルコニーはマンションの「共用部」です。

バルコニーは住戸間に隔板が設けられている場合には、緊急時の避難経路として使われるため、障害になるものは置いてはいけません。障害物があるために隔板を破れない、避難ハッチを開けられないといった事態になれば、他の居住者の生命を脅かすことにもなりかねません。



1 事前の備え 自宅で被災生活するための備蓄品を用意

②事前準備

ライフラインが全て機能しなくなった場合、命を守り、被災後の生活を維持するためには、最低限3日間は自宅で生活できる物資を用意する必要があるといわれています。ただし行政の支援が必ず4日後に届くという保証はありません。チェックリストを参考にできるだけ多めに備蓄しましょう。また事前に避難時に用意するもの等もいっしょに準備しておきましょう。

☑自宅で被災生活をするためのチェックリスト

チェック	数量	備蓄品	備考
		保存水	健康維持に必要な1日の水分の摂取量は成人男性で約3.5ℓ、成人女性で約2.5ℓと言われています。この量を目安に最低3日分は用意します。
		非常食	大災害後は食料の入手が困難になります。最低3日分は用意しておきましょう。ただし普段あまり食べないものをたくさん備蓄しても賞味期限の管理が面倒です。非常食用の長期保存タイプにこだわらず、お米や乾麺、缶詰やレトルト食品、乾物など、常温保存が利く食料品をおすすめします。
		カセットコンロ	暖かい食事は災害で消耗した心と体を癒します。電気・ガスの供給が停止した場合でも暖かな食事を用意し、また食材に火を通すことで、食中毒などの二次被害を防ぐためにも、調理用熱源を確保しておきましょう。
		替えのカセットボンベ	
		災害用トイレ	災害によって断水すると水洗トイレが使えなくなります。マンションの場合は配管の破損によって排水もできなくなる場合があります。災害用トイレを用意しておけば、たとえ排水ができなくても排泄が可能です。災害用トイレには凝固剤が含まれており、防臭・抗菌効果にも優れています。
		トイレトペーパー	
		救急用品	医療機関の受け入れ態勢もパンク状態になる大規模災害時には、自宅で必要最低限の応急手当をするための救急用品が必需品です。頭痛薬・胃腸薬・下痢止めなどの常備薬もしっかり準備しておきましょう。
		ポリタンク	給水用です。
		水のいらないシャンプー	断水時はもちろんですが、大地震の影響で排水もできなくなる恐れがあります。水のいらないタイプの各種衛生グッズも揃えておくと安心です。
		ウェットティッシュ	
		ウェットタオル	
		除菌ジェル	
		歯磨きシート	停電時の照明用に準備しましょう。
		LEDランタン	
		懐中電灯	
		粘着ローラー	ガラス片など細かい破片を掃除するのに便利です。
		笛・ホイッスル	マンション室内に閉じ込められた場合、大声で叫んでも中々隣近所でも聞こえません。笛などを吹くことで効果が高くなります。
		消臭剤	汚物やゴミの臭い消し用です。
		ラジオ	広域の被害状況などの情報収集をするために必要です。
		乾電池	ラジオや懐中電灯用です。
		ごみ袋	ゴミ入れ・仕分袋のほかに災害用トイレがなくなった場合にはトイレ用としても利用可能です。
		ビニールシート	危険箇所を覆ったり、色々活用ができ重宝します。
		寝袋	暖房が使用できず寒い場合に便利です。



1 事前の備え 避難時に用意する備品リスト

☑避難のために用意しておくもののチェックリスト

チェック	数量	備蓄品	備考
<input type="checkbox"/>		お金	復興時の申請や手続きが必要となります。
<input type="checkbox"/>		貴重品と財産リスト(下記参照)	
<input type="checkbox"/>		健康保険証	
<input type="checkbox"/>		印鑑(認印可)	
<input type="checkbox"/>		家族の写真	
<input type="checkbox"/>		ヘルメット	避難時の安全確保として必要となります。
<input type="checkbox"/>		マスク	
<input type="checkbox"/>		ゴーグル	
<input type="checkbox"/>		懐中電灯	
<input type="checkbox"/>		軍手又は革手袋	
<input type="checkbox"/>		下着	避難場所での生活用品を揃えます。
<input type="checkbox"/>		タオル	
<input type="checkbox"/>		ティッシュ	
<input type="checkbox"/>		雨具	
<input type="checkbox"/>		非常食	最低限の食料等を用意します。
<input type="checkbox"/>		飲料水	
<input type="checkbox"/>		給水袋(ポリタンク)	
<input type="checkbox"/>		携帯電話と充電器	連絡手段として準備します。
<input type="checkbox"/>		携帯ラジオと乾電池	情報収集手段として準備します。
<input type="checkbox"/>		救急用品	救護用品として準備します。
<input type="checkbox"/>		ペン・油性マジック	メモ・伝言等に使用します。
<input type="checkbox"/>		ノート・メモ帳	
<input type="checkbox"/>		個人的必需品	メガネ、常備薬など。

財産リスト

災害時は、金融機関などではさまざまな救済処置が講じられます。ただし、預貯金など財産を把握していないと申請ができません。財産を守るためにも証券番号や連絡先をリスト化して、きちんと把握しておきましょう。紛失や焼失の際の再発行の手続きが円滑に行えます。

チェック	証券番号	連絡先	備考
自動車登録番号			
保険証番号			
免許証番号			
パスポート番号			
基礎年金番号			
印鑑登録証番号			
クレジットカード番号			
銀行口座番号			

※作成したリストは紛失しないように大切に保管しましょう。

1 事前の備え 家族や友人などで決めておくこと

③ 災害時の連絡

災害が発生したときに家族が離れ離れになっている場合、安否の確認をどうするかなど連絡方法をあらかじめ家族で決めておきましょう。また被災していない遠方の地域にお住まいの親戚や知人などで、家族間の連絡に協力してもらう人を決めておきましょう。

大災害時の連絡方法と活用

大きな災害が起きたときには、NTT・携帯電話・PHS各社の緊急サービスが利用できます。
日頃から利用方法、サービス内容など確認しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル (NTT)

音声メッセージの録音・再生ができる伝言板サービス

詳しくはNTTのホームページをご確認ください

録音

171 ▶ 1 ▶ 000-0000-0000

市外局番からの電話番号

伝言を入れる(30秒以内)

再生

171 ▶ 2 ▶ 000-0000-0000

市外局番からの電話番号

伝言を聞く

災害用伝言ダイヤル

- 1.登録できる電話番号は被災地域の市外局番から始まる電話番号に限られます
- 2.伝言保存期間は48時間(保存期間を経過した時点で自動消去となります)
- 3.登録は10件、録音時間は各30秒(但し被災規模によって登録件数・登録時間が変わります)

災害用伝言板サービス (携帯電話・PHS各社)

安否情報を文字で登録/確認ができるサービス

詳しくはご使用の携帯電話会社のホームページをご確認ください

携帯電話や固定電話へメッセージを発信 **web117**

安否情報の登録



携帯電話



画面の一例

安否情報の確認



携帯電話やPC

災害用伝言板サービス

- 1.docomo, auは、被災地エリアからのみ登録可能となります
- 2.伝言保存期間はサービス終了まで保存(伝言が10件を超えたら古いものから上書き削除されます)
- 3.登録件数は10件・100文字以内となります(状態、状況を選択してコメント入力が可能です)

災害用音声お届けサービス (携帯電話各社)

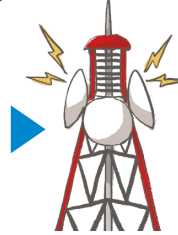
安否情報を音声で登録/確認ができるサービス

詳しくはご使用の携帯電話会社のホームページをご確認ください

送信者



受信者



災害用音声お届けサービス

- 1.登録できる電話番号は対応している機種のみ利用可能です
- 2.伝言は48時間、保存期間は10日間です(メッセージが取得された時点で自動消去されます)
- 3.登録件数は20件、録音時間は30秒です

※詳細は通信事業者によって異なります。事前にサービス案内ページを確認しておきましょう

その他の通信手段

① 公衆電話

一般電話よりもつながりやすく、災害時には無料で使用することが可能です。

② 携帯電話

通信規制などでつながりにくくなりますが、外出時や移動中でも使えます。

③ インターネット

WEBメール(携帯メール)の配信が混雑、遅延している場合Twitter、Skype、Facebookなどが役立つことがわかっており、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の活用も考えておくと安心です。
各企業・団体が収集した安否情報をまとめて確認できるサイト「J-anpi」もあります。(NTT)………<http://anpi.jp>



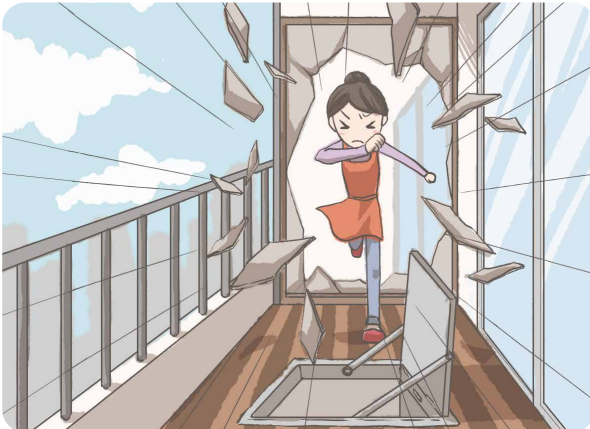
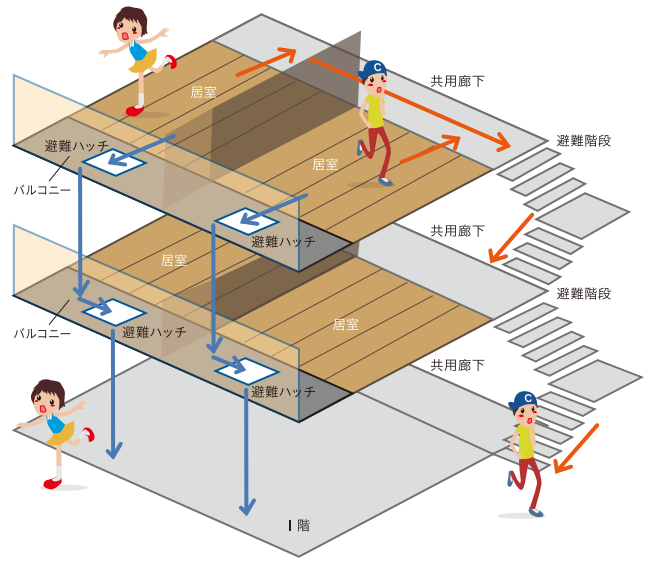
1 事前の備え 避難ルートのシミュレーション・確認

④ 避難経路、避難器具等の確認

お住まいのマンションの構造、非常用設備の設置場所・使用法、避難経路・方法を熟知しておきましょう。
とっさの判断と行動が求められる災害時でも落ち着いて行動することが、被害を最小限に抑えたり、迅速な避難につながります。

避難経路の確認

マンションでは玄関の枠が歪んでドアが開かなくなった場合でもバルコニーから避難できるようになっています。
災害時に確実に避難できるよう、避難ハッチの設置場所や使い方などを確かめておきましょう。また地震発生後にはエレベーターが使用できなくなるため、非常階段等の確認も必要です。



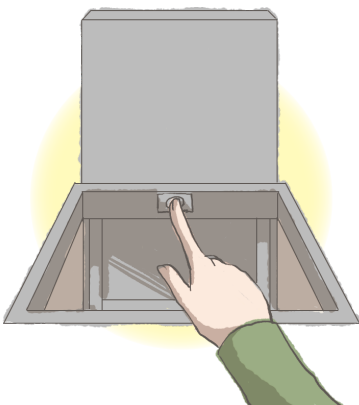
バルコニーからの避難

玄関や共用廊下から避難できない状況になった場合は、バルコニーの避難ハッチから避難ハシゴを使い、できるだけ安全な階へ避難します。自室のバルコニーに避難ハッチがない場合はバルコニーの隔板を突き破り、隣の避難ハッチから避難します。隔板は力強く足で蹴り破る、握りこぶしで叩くなどして突き破ります。女性や子供でも突き破れる強度になっています。

避難ハシゴの使い方



①チャイルドロックを外し、上ボタンがロックされるまで開きます。下ボタンも連動して開きます。



②階下の住人に声を掛けながら、安全を確かめてレバーを押します。ハシゴがゆっくりと下降します。



③ハシゴが伸びきったことを確かめ下へ降ります。

※設置向き・操作方はマンションによって異なる場合があります。事前にご確認ください。

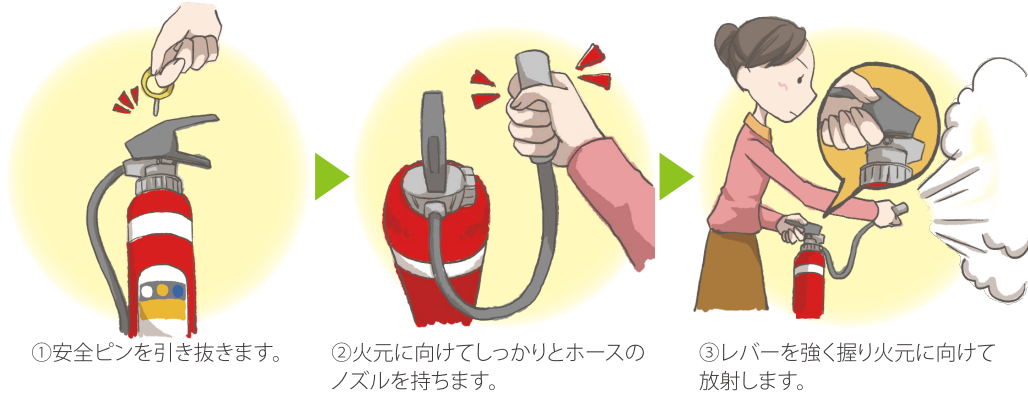


1 事前の備え 初期消火器具の使用方法を確認

消火器・消火栓の使い方

マンションの消火設備には消防隊員が使用するものと、消火器など居住者でも比較的容易に扱えるものがあります。大災害時には消防隊員の到着が遅れることが予想されるため、居住者が協力し合って迅速に初期消火にあたる必要があります。いざというとき確実に消火活動ができるよう、消火設備の種類・設置場所・使用方法を前もって確認しておきましょう。

●消火器



●屋内消火栓

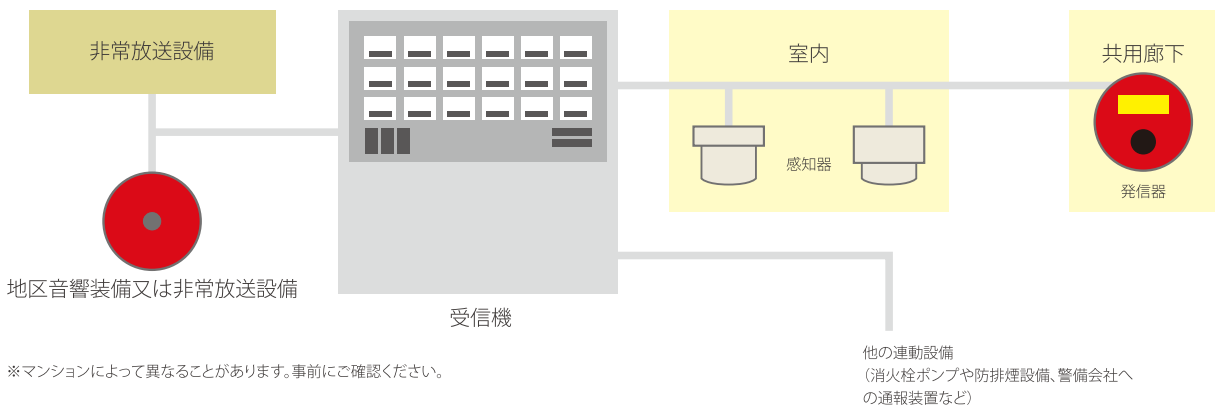
消火栓ボックスの中には、初期消火のための消火栓弁・ホース・筒先などが収納されています。また扉の内側には使用説明書が表示されています。※1号消火栓の場合、放水すると消火栓でバルブを操作する人の2人が必要です。2号消火栓の場合は1人で操作できます。



●自動火災報知設備とは

熱・煙・炎を自動検知したり、人がボタンをおすことで火災発生を知らせる設備です。

自動火災報知設備システム概略図





2 災害時の基本行動 火災発生時のポイント

①火災時の行動

住戸内などで火災が発生したときのためにぜひ知っておきたいポイントをご紹介します。

火災への対応

火災が発生したら直ちに消防機関(119)へ通報を行ないます。

119番通報例

通報者 119番を発信する

消防 「はい、119番消防です。火事ですか、救急ですか？」

通報者 「火事です」

消防 「場所はどこですか？」

通報者 ●●区●●町●丁目●番地●号 ●●マンションです

消防 「その建物は何階建てですか？ 燃えているところは何階ですか？」

通報者 ●階建ての●階が燃えています

消防 「逃げ遅れた方はいませんか？」

通報者 「●名が逃げ遅れています」

消防 「何が燃えているかわかりますか？」

通報者 「●●が燃えています」

消防 「近くに目標になる建物がありますか？」

通報者 「●●●があります(●●の北側です)」

消防 「あなたのお名前と連絡先を教えてください」

通報者 「●●です。電話は●●●-●●●●●●です」

消防 「わかりました。すぐ行きます」

この内容でゆっくり話して約80秒かかります。実際の火災時はパニックとなり落ち着いて説明できず、時間がかかることが考えられます。まずは落ち着くことを心掛けましょう。消防機関への通報後は初期消火を行ないます。

※119番通報と初期消火は消防法に定められた国民の義務です。

住戸内火災時の避難のポイント



白い煙の場合は息を止め、一気に走りぬきましょう。



黒い煙の場合は有毒性が高いため、煙を吸わないよう姿勢を低くし、床を這うように避難しましょう。視界が非常に悪くなるため、壁をつたって出口を探します。水で濡らしたタオルやハンカチを口に当てることで有毒性が薄れ、気管や肺を熱から守ることができます。

有毒ガスについて

火災で怖いのは炎より煙です。建材、ソファ、カーテン、パソコンなどから発生する煙が有毒ガスを含んでいるからです。有毒ガスの濃度が高い場合、吸い込むと頭痛、めまい、けいれんなど引き起こし意識を失うこともあります。また煙は高温のため気管、気道、肺が火傷し、さすが肺に付着して呼吸困難となります。煙が発生したら、一刻も早く避難することが大切です。

住戸内の煙の拡散

煙は、横方向に毎秒0.5~1m(大人が歩くより若干早い速度)、上方向に毎秒3~5m(驚異的な速さ)で広がります。



①煙は初期から大量に発生し上昇します。



②天井に達したら横に広がります。



③火元から遠ざかり冷却されると、下降して視界を遮るようになります。



2 災害時の基本行動

地震発生時のポイント

②地震時の行動

緊急地震速報

緊急地震速報とは震源近くで初期微動(P波)を感知して、主要動(S波)が始まる前に震源・規模・震度を素早く知らせるものです。地震発生時に少しでも余裕をもって初期行動を起こすのに役立ちます。速報が流れてから強い揺れを感じるまではわずか数秒～数十秒の時間ですが、その間に室内のドアを開ける、火を消すなどの動作が可能になります。



窓にクッションなどを挟みガラスの破損防止と避難経路を確保します。



ガラスの飛散を軽減するためにカーテンを閉めます。

地震発生時

事前の備えとして避難経路の確認などについて説明しましたが、地震発生時にはまず身の安全の確保を優先してください。揺れで体が飛ばされないように固定された丈夫なものにつかまる、粉じんや埃から気管を守るため揺れの最中や直後には大声を出さないなどの対応をとるようにしてください。ここでは住戸内・共用部での対応を紹介します。

住戸内

キッチン



揺れを感じたら、まずはガスコンロなどの火を消し、冷蔵庫などの転倒から身を守るためキッチンから離れましょう。

就寝中



就寝中の場合、とっさに状況を判断して行動するのは困難です。とりあえず布団や枕で頭や体を保護し、揺れがおさまるのを待ちましょう。

居室



すぐに窓や、転倒・落下の恐れのある家具などのそばから離れます。丈夫な机の下にもぐり、近くにあるクッションなどで頭部を保護して、できるだけ低い姿勢をとりましょう。

トイレ



マンションの場合、ほとんどの住戸にはトイレの窓がありません。そのため、閉じ込められると、外からの助けを求められることが非常に困難になります。すぐにトイレから出られない状況の場合、揺れでドアが閉まらないようにスリッパを挟んでおきましょう。

入浴中



無理に浴室から出ようとせず、まずは浴槽の縁や手摺につかまりましょう。浴槽のフタや桶などは頭部や体を保護するのに役立ちます。

共用部

エントランス・廊下

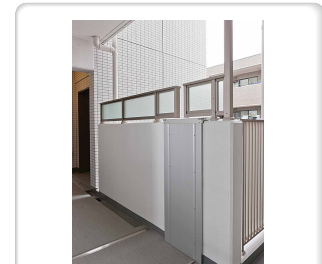


エントランスではガラス扉や窓から素早く離れ、廊下では壁側に体を寄せて頭部を鞆などで守りましょう。また、**エキスパンションジョイント**がある場合はすぐに離れてください。

エレベーター



最近のエレベーターはほとんど、地震の揺れを感知すると自動的に最寄りの階に止まり、ドアが開くようになってます。そうでない場合は揺れを感じたら全ての階層ボタンを押し、ドアが開いた階で降りるようにしましょう。



エキスパンションジョイントとはL字型構造や渡り廊下のある建物では温度変化による伸縮や地震による無理な力の集中が発生します。これを軽減させる部分です。



2 災害時の基本行動

地震の揺れ 震度とマグニチュード

突然襲いかかってくる巨大地震や津波。いつ起こるであろうマグニチュードと地震についてご説明します。

マグニチュードとは

マグニチュードは地震のエネルギーそのものを表す数字で、地震による各地の揺れの程度を表す震度とは違うものなのです。マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさとの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、机がどのくらい離れているかで、机の上の明るさは違ってきます。マグニチュードの値が同じであっても、震源から近ければ震度は大きく、震源から遠ければ震度は小さくなります。又、地盤の質の違いによっても震度は違ってきます。

※日本防災環境HPマグニチュードと震度より文章抜粋

マグニチュードの大きさ	地震の規模
マグニチュード ～1	極微小地震
マグニチュード 1～2	微小地震
マグニチュード 3～5	小地震
マグニチュード 5～7	中地震
マグニチュード 7～	大地震
マグニチュード 8～	巨大地震

※マグニチュードと一般的に呼ばれている地震の規模とは上記のような目安となっています

震度とは

震度とは、気象庁が全国各地約600地点の震度観測点を展開しており、揺れの強さを表します。震度はエネルギー規模だけではなく、震源からの距離・地盤条件などによって違ってきます。震度は人の受ける影響により、10段階に分けられています。

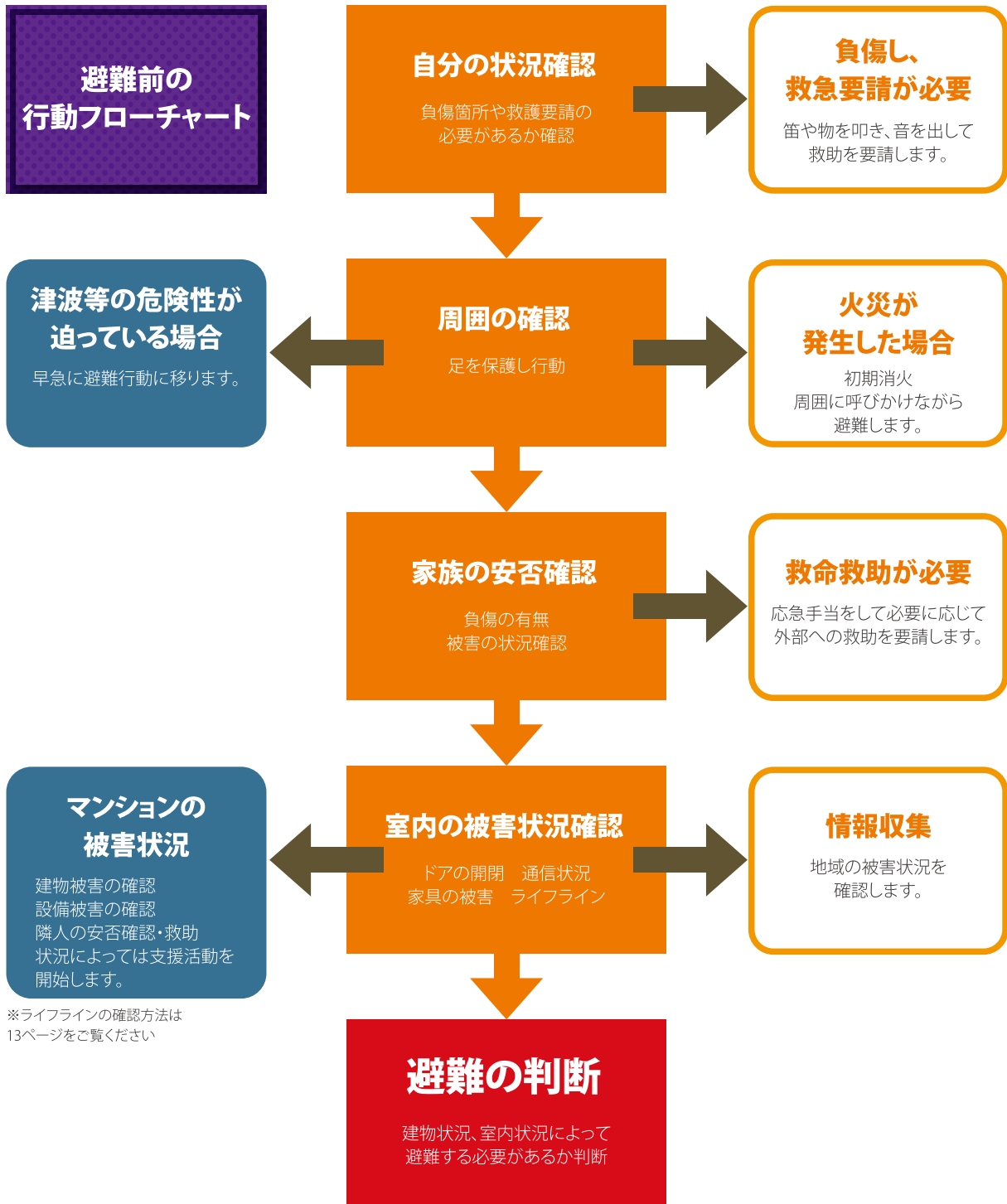
地震の揺れの程度

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じませんが、地震計には記録されます		
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れを僅かに感じる人がいます		
2	屋内にいる人の殆どが、揺れを感じます。眠っている人の中には、目を覚ます人もいます	電灯等のつり下げものが、僅かに揺れます	
3	屋内にいる殆どの人が揺れを感じます。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいます。また眠っている人の殆どが目覚めます	棚にある食器類が音を立てることがあります	電線が少し揺れます
4	殆どの人が驚きます。歩いている人も殆どが揺れを感じ、又、眠っている人も大半が目覚めます	電灯等のつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てます。又、座りの悪い置物が、揺れることもあります	電線が大きく揺れ、自動車を運転していて、揺れを気付く人がいます
5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じます	電灯等のつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがあります。又、座りの悪い置物の大半が倒れ、固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがあります	稀に窓ガラスが割れて落ちることがあります。又、電柱が揺れるのが分かり、道路に被害が生じることがあります
5強	大半の人が物につかまらないう、歩くことが難しい等、行動に支障を感じます	棚にある食器類や書棚の本は、落ちるものが多くなります。又、テレビが台から落ちることもあり、固定していない家具が倒れることがあります	窓ガラスが割れて落ちることがあり、補強されていないブロック塀が崩れることがあります。又、自動車の運転が困難となり、停車する車もあります
6弱	立っていることが困難になります	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもあります。またドアが開かなくなることがあります	壁のタイルや窓ガラスの破損、落下することがあります
6強	立っていることができず、はわないと動くことが出来なくなります。又、揺れに翻弄されて、動くことも出来ず、飛ばされることもあります	固定していない家具の殆どが移動、倒れるものが多くなります	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなり、補強されていないブロック塀の殆どが崩れます
7		固定しない家具の殆どが移動したり倒れたり、飛ぶこともあります	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなります。また補強されているブロック塀も破損するものがあります

※気象庁震度階級関連解説表より抜粋

③避難前に行なうこと

揺れがおさまったら、痛むところはないかなどまずは自身の体の状況を確認します。無事ならまず足元の確認をします。ガラスなどの破片が散乱していたらスリッパを履く、雑誌などで足場をつくるなど移動の安全を確保しましょう。次に火元の確認をします。火災が発生していたらすぐに初期消火し、避難経路の確認をします。それから家族の被害の確認を行ない、災害の規模や地域の被害状況などの情報を入手し、外部へ避難すべきか判断します。ただし、津波や土砂災害の危険性の高い地域の場合は、直ちに避難行動を開始しましょう。



※ライフラインの確認方法は13ページをご覧ください



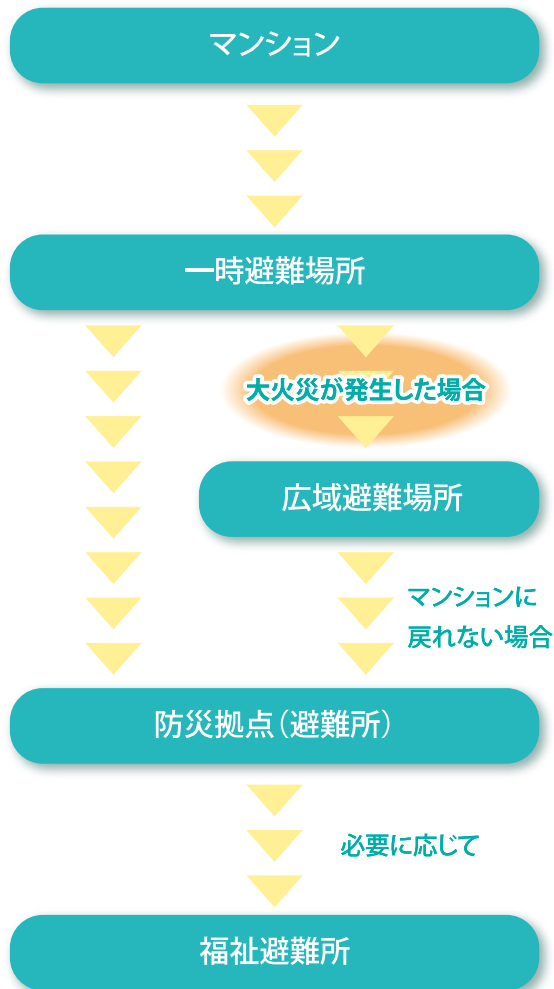
3 災害後の行動 状況に合わせた適切な避難の判断

①災害後の行動

外部より被害状況を確認後、状況によっては避難場所へ避難する必要があります。

避難場所には一時(いつき)避難場所、広域避難場所、防災拠点(避難所)があり、被害の状況に応じて避難する場所が異なります。それぞれの位置やマンションからのルートを確認しておきましょう。

また避難場所へ移動の前には必ず電気ブレーカーを落とし、ガス・水道の元栓を閉めてください。



避難のタイミング

- ◆マンション内、もしくはマンション周辺で爆発、大火災が発生した場合
- ◆行政より避難勧告、避難指示が発令された場合
- ◆避難の必要性があると災害対策本部が判断した場合
- ◆日常生活のためのライフラインが途切れた場合
- ◆玄関の出入りが困難になった場合
- ◆住戸内に安全な場所がない場合
- ◆居住者のほとんどが避難して防犯面に不安を感じた場合
- ◆余震で自宅内にいることが不安な場合

●一時(いつき)避難場所

近くの学校・公園・広場など、一時的に集合して状況を見る場所。広域避難場所や防災拠点へ移動するための集団を形成する場所でもあります。

●広域避難場所

地震による火災が多発し、延焼拡大したときに、一時的に避難する場所。大規模な公園やグラウンド、耐火建物地域などが指定されています。

●防災拠点(避難場所)

家屋の倒壊などにより、自宅に戻れない場合に避難生活を送る場所。小中学校などの公共施設が指定されています。

●福祉避難所

高齢者や障害者など、避難生活に特別な配慮を必要とする人のための避難場所です。

※自治体によって名称が異なります。事前にご確認ください。

避難時の服装

被災直後に避難するときは、動きやすい服(ケガを防ぐためにも季節を問わず長袖シャツ・長ズボンが基本)と底の厚い靴を選び、ヘルメット・手袋・マスクを着用しましょう。



エントランスのオートロックどうなるの?



停電時、エントランスの自動ドア・オートロックは機能しません。セキュリティのロックは解除されていますので、手動にて開閉が可能です。

①災害後のライフライン(電気・ガス・水道)の確認方法

災害後、ライフライン(電気・ガス・水道)をすぐに作動させると二次災害が発生する恐れがあります。落ち着いて各所復旧等の確認をしていきましょう。

電気の安全チェック!

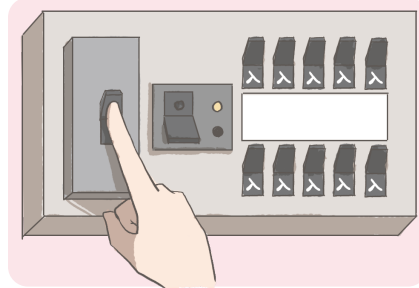
復旧作業前に……

- ・周囲で火災やガス漏れはないか
- ・近隣で電線が切れたり電柱が倒れたりしていないか

電気の復旧作業

自分の住まいだけが停電の場合は、漏電遮断器または個々の安全ブレーカーが作動したためと考えられますので漏電遮断機・安全ブレーカーを入れてください。

但し、周リー帯が停電している場合は復電時に漏電や発熱することがありますので漏電遮断機を落し、全てのコンセントからプラグを抜きましょう。さらにガスの火を消し、ガス栓も閉めるようにしましょう。



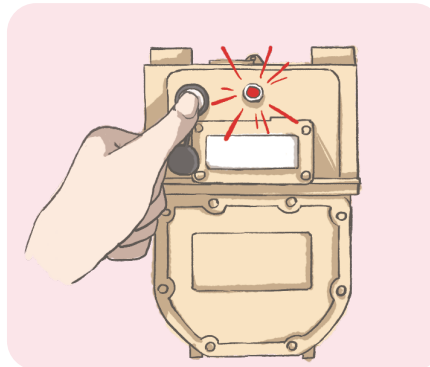
※器具により異なる場合がございます。

ガスの安全チェック!

復旧作業前に……

- ・自分の住まいがガス臭いときは窓を大きく開け、器具栓・ガス栓・メーターガス栓を閉めましょう
- ・周囲でガス臭い時は窓を閉めましょう
- ・ガス漏れがないと確認が済むまで
 - ①電気をつけない
 - ②たばこを吸わない
 - ③各部屋のスイッチを入れない
 - ④火を使わない
 - ⑤換気扇を使用しない

ガスの復旧作業



※器具により異なる場合がございます。

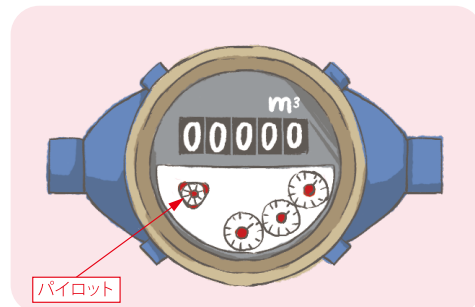
①キャップを外し、赤い復帰ボタンを押し、約3分待ちます。

②赤い点滅ランプが消えていれば、ガスは使えます

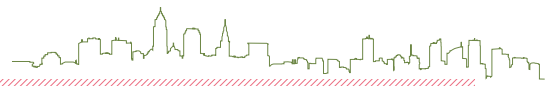
水道管の確認

水道管に漏水が発生していないか確認しましょう。

- ①全ての蛇口を閉めます。
- ②メーターボックスを開け、メーターを確認します。
- ③蛇口等を全部閉めた状態で、パイロットが回っている場合は漏水している可能性がありますので、止水栓を閉めてください。



パイロット



4 資料

災害時の参考様式

②緊急カードを作成しましょう

災害時は電話などが通じにくくなり、家族との連絡が取れない場合があります。いざという時のために、家族等への安否確認・緊急連絡カードを作成しておきましょう。

号室	
無事です	
<input type="checkbox"/>	()避難所へ避難
<input type="checkbox"/>	マンションの()に避難
<input type="checkbox"/>	親戚・知人宅などに避難
	避難先氏名 電話番号
	住所
<input type="checkbox"/>	その他

※「無事です」カードは避難する際、住戸の玄関ドアにマグネット、テープ等でしっかりとめましょう。

緊急連絡 携帯カード		家族・親戚等の連絡先	
住所		氏名	連絡先
氏名			
電話			
生年月日【 年 月 日】(血液型 型)			
かかりつけ医・健康情報			
連絡先		電話番号	
常備薬 持病 アレルギーなど			

※コピー等して財布や定期入れなどに入れて常に持ち歩くのにご利用ください。

CLEARTHLIFE
GROUP

マンション管理業 国土交通大臣(3)第030634号 宅地建物取引業 東京都知事(5)第72123号
一級建築士事務所登録 東京都知事第49539号 警備業登録 第30003132号 東京都公安委員会
特定建設業登録 東京都知事 許可(特-24)第127990号

株式会社クリアスコミュニティー

〒106-0032
東京都港区六本木5-1-3 ゴトウビルディング1st
電話03(6824)9550 FAX03(6440)0317

コンシェルシア24緊急センター
24時間・365日



03-6824-9494

クリアスライフグループ

自社ブランドマンション「コンシェルシア」シリーズの企画・開発・分譲

株式会社クリアスライフ

賃貸管理事業・不動産売買に関する仲介業務

株式会社クリアスレント

中古マンション買取・再販及び仲介流通事業

株式会社クリアスパートナーズ

建物賃貸借契約の家賃債務保証業務

株式会社アーバンプライム

不動産賃貸に関連した借上(サブリース)事業

株式会社クリアサブリース